

朝日新聞 2016年10月27日

日本最大の広告会社・電通の女性新入社員(当時24歳)が昨年末に自殺したのは過労が原因であるとして9月30日、労災が認められた。自殺を巡る一連の報道でクローズアップされたのは「月100時間」を超える残業時間だったが、……残業時間だけが独り歩きし、問題の核心が見えにくくなってしまっている……。

しかし注目すべきは残業が「月100時間」に及んだことだけではない。

……女性社員は、自身のツイッターに「休日返上で作成した資料をボロクソに言われた、体も心もズタズタ」「男性上司から女子力がないと言われる」「若い女の子だから見返りを要求される」といった悲痛な叫びを残していた。彼女の自殺は昨年11月上旬に発症したうつ病によるものとされている。過重労働以外にも度重なるパワハラやセクハラが背後にあったことは想像に難くない。だが、本人が証言できない状況でハラスメントを証明するのは難しい。そこがすぐには深掘りできないため、報道が過重労働に集中しているのだろう。

……何より問題の根幹は若い女性社員特有の問題——パワハラやセクハラに遭いやすく、泣き寝入りせざるを得ない日本の古い労務環境にある。26日発表の16年の世界各国男女平等ランキング「ジェンダーギャップ指数」で日本の順位は144カ国中111位と過去最低レベルとなった。前途ある若者の死を無駄にしてはいけない。……。

(つだ・だいすけ 1973年生まれ。ジャーナリスト・政治メディア「ポリタス」編集長)

全文⇒<http://digital.asahi.com/articles/DA3S12628045.html?rm=150>